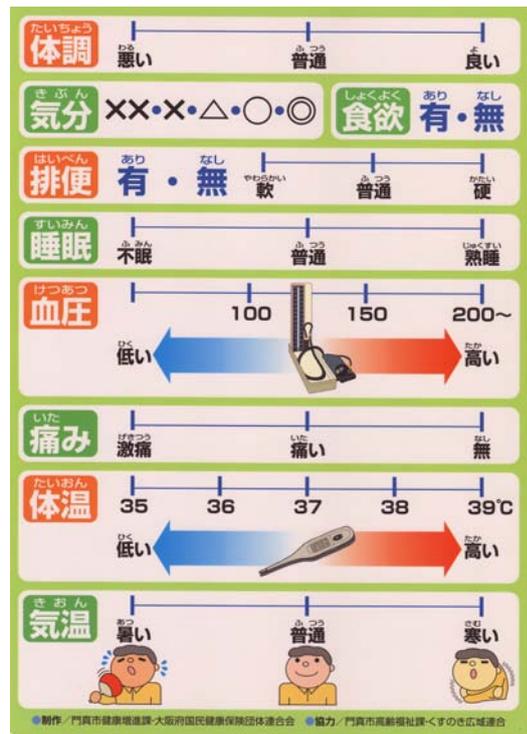
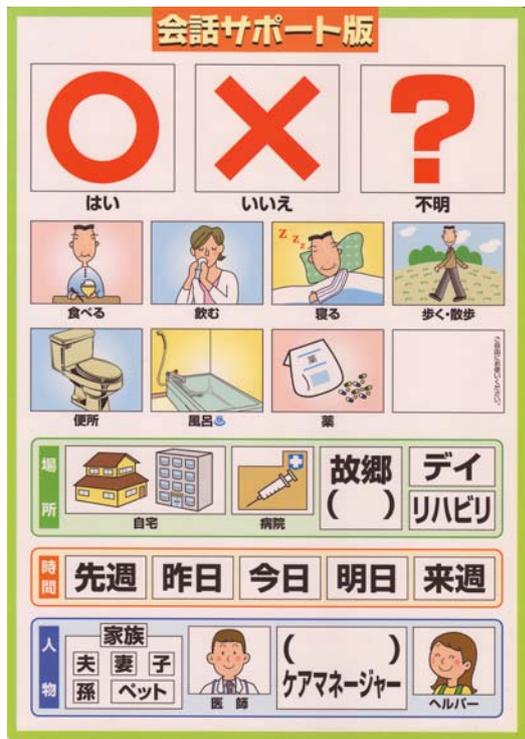


あなたから始まる 会話のバリアフリー

# 会話サポート版 使用ガイド



会話は人と人が関わりを持ち、その人らしく生活を営むうえで欠くことのできない行為です。

しかし、脳梗塞といった脳血管障がいや加齢等の影響で、会話が困難になる方は、情報が正しく理解できなかつたり意思を伝えることが難しく社会的関わりを避けがちです。

コミュニケーション手段で最も一般的で情報量が多く便利なものは「話し言葉」でしょう。しかし、会話が困難になる方の多くは、「話し言葉」だけでなく文字や絵・写真といった視覚的手段を用いたやりとりが得意です。

歩行が困難な方には車椅子や手すり、視覚障がいの方には点字があるように、会話を支援するツールとして『会話サポート版』を制作し、コミュニケーション障がい者が住み慣れた地域で安心して生活できるまちづくりを目指しました。

『会話サポート版』をとおして、コミュニケーションが困難な方への理解と支援の輪が広まることを願っています。

制作：門真市健康増進課    大阪府国民健康保険団体連合会

協力：門真市高齢福祉課    くすのき広域連合

## 会話サポート版の使い方

### 基本的な使い方

- ・脳血管障がいや加齢などの影響でコミュニケーションが苦手な方との会話を支援するものです。特に失語症の人とのやりとりに適しています。
- ・絵や文字を指して伝えてもらいます。
- ・私たちが絵や文字を指しながら話しかけたり質問をします。
- ・会話サポート版を指すだけではなく、表情をみながらゆっくりと短いことばかけをすることも大切です。



### どのような場面で使うの？

当事者が家族や馴染みの誰かと、体調について話しをしたり、ちょっとした雑談をするときにあると便利です。

#### ◆血圧測定をしたら

「150ですね…ちょっと高めですね」と言いながら **150** **高い** を指差します。当事者が自身の血圧値をより確実に知ることができました。

#### ◆様子がおかしい！どうしたのだろう？

当事者がお腹をかかえてうつむいています。

「どうされましたか？痛いのですか？」と尋ねながら

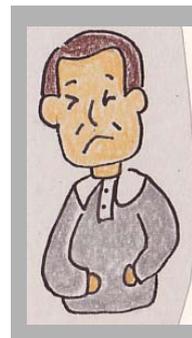
**痛み** を指差し、痛みの程度を聞きます。

**激痛** を指差されました。

次に **排便** を指しながら「便はありましたか？」

と聞くと **有** **軟** を指差されました。

下痢で激しい腹痛があることがわかりました。



#### ◆先週は何をしていたのだろう？

**先週**・**場所** を指差しながら「先週はどちらにいらっしゃいました？」と尋ねます。**自宅** を指差されたので「自宅で何をしていたのですか？」と聞くと **子**・**孫** を指されました。先週、家に子どもと孫が遊びに来ていたことがわかりました。

### ◆「眠れないんだ」

当事者が会話サポート版を出して、「不眠」を指差され、十分に眠れないことを訴えてきました。環境整備や薬の調整をして、熟睡して日中を活動的に過ごすことができました。

コミュニケーションが困難な方との会話は、私たちからの一方的なことばかりになりがちです。「伝わった」という経験を重ねることで、自ら発信する会話になると嬉しいですね。

### 当事者が指さない場合

当事者が伝えたい事柄を推測して  
1つ1つ絵を指しながら  
「〇〇ですか?」「××ですか?」と  
はい/いいえ で答えられるように  
尋ねてください。



### 応用編

「会話サポート版」の絵や文字には制限があります。誰とでも、どんな場面でもサポートすることは難しいです。それぞれの場所で必要な絵と文字を準備し使ってください。

### ◆「何を飲みますか?」

飲み物の写真やパッケージを貼った版を差し出し、欲しい飲み物を聞くことができます。ちょっとした工夫をすることで、自ら選択し意志を伝えることが可能になります。



### ◆携帯版

小さなノートに必要な絵や写真、文字などを書いて外出に便利な携帯バージョンの制作もできます。

### 症状に合わせた関わりが大切です

症状は千差万別です。その上見た目ではわかり辛く、戸惑われることもあるでしょう。どのようにやり取りをしたら良いのかご相談ください。

### お問い合わせ

門真市健康増進課（市保健福祉センター内）  
門真市御堂町14-1 電話06-6904-6500